日本遺産 とは

「日本遺産（Japan Heritage）」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

日本遺産

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
― 北前船寄港地・船主集落 ―

日本海から瀬戸内海にかけての沿岸部に点在する北前船の寄港地や船主集落には関連する数多くの文化財が残されており、金沢市を含む全国45市町が、「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 －北前船寄港地・船主集落－」として日本遺産に認定されています（令和元年5月20日現在）。

金沢市では、市内に所在する計10件の文化財がストーリーの構成文化財に認定されましたが、そのほかにも北前船に関連する貴重な文化財やゆかりの地などが市内各所に残されています。

ストーリーの概要

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。

そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。

また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。

これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。

北前船KITAMAE
公式サイトURL

金沢市の文化財
公式サイトURL

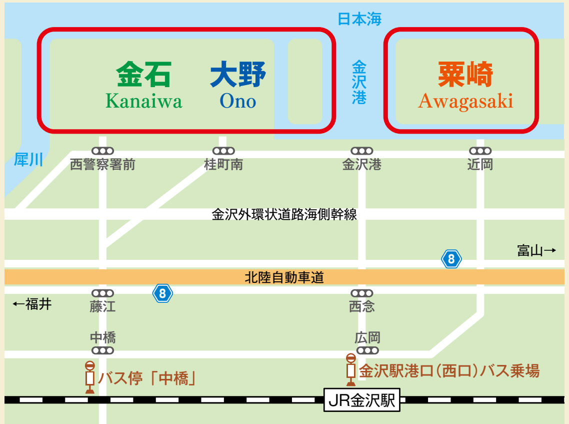
北前船の活躍と男たちの夢

北前船は、日本海・北海道と瀬戸内・大阪を結ぶ航路で江戸時代の中ごろから明治30年代にかけて活躍した帆船のことです。預かった積み荷を運搬するだけではなく、船主自らが商品を買い付け、目的港や寄港地でそれらを売買して利益を上げていたのが特徴で、船主は１回の航海で莫大な利益を上げていましたが、反面、大きな危険を伴う困難な航海でもあったようです。

危険な荒波を命がけで越え、自らの才覚と努力で大きな商機をつかむ――海の男たちの描いた「夢」を紡いだまちが、日本海から瀬戸内海にかけての沿岸部に点在しています。城下町・金沢には、男たちの遺した数多くの歴史遺産が、彼らの夢とともに今も残り、伝えられているのです。

北前船（1/4模型）
石川県銭屋五兵衛記念館

アクセス ― 金石・大野・粟崎 ―



【バスでのアクセス】

●金石・大野方面
北陸鉄道「中橋」バス停（JR金沢駅から徒歩約５分）
60番「金石」 61番「大野」 63番「大野港」

●粟崎方面
JR金沢駅 金沢港口（西口）バス乗場（４番のりば）
70番「粟崎・内灘駅・コマツ金沢工場」

文化財を大切に

日本遺産　北前船寄港地・船主集落
金沢探訪MAP

発行　金沢市
編集　金沢市文化財保護課
石川県金沢市広坂1-1-1　TEL 076-220-2469　2019年10月発行

日本遺産 JAPAN HERITAGE

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間

北前船寄港地・船主集落

金沢探訪MAP

― 金石・大野・粟崎 ―

#KANAIWA
#ONO
#AWAGASAKI

KITAMAE-BUNE

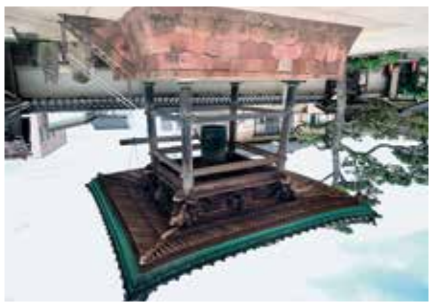
北前船寄港地・船主集落　金沢市の構成文化財

1 専長寺　松帆榭
せんちょうじ　しょうはんしゃ

金沢市指定文化財（建造物）
金石味噌屋町 6-37　専長寺
見学の際には事前連絡必要　☎076−267−1574

専長寺は金石味噌屋町にある真宗大谷派の寺院です。創建は寛正６年(1465)で、寺号は蓮如により文明４年(1472)に名付けられました。現在の本堂は寛政９年(1797)の再建です。松帆榭は本堂北側の土蔵に隣接して建つ茶室で、金石御塩蔵町にあった北前船の豪商・銭屋五兵衛の隠居所の茶室を移築したものと伝えられています。

2 本龍寺　鐘楼
ほんりゅうじ　しょうろう



金沢市指定文化財（建造物）
金石下本町 1-23　本龍寺
見学の際には事前連絡必要　☎076−267−1568

本龍寺は金石下本町にある真宗大谷派の寺院です。鐘楼はいわゆる鐘撞き堂のことで、境内の北東すみにあり、通りからもその姿を見ることができます。赤戸室石の端正な基壇の上に建ち、各所に美しい彫刻を見ることができます。江戸時代末期に活躍した船主・川端嘉左衛門の寄付によって建てられたものです。

3 金石こまちなみ保存区域
かないわこまちなみほぞんくいき

金沢市こまちなみ保存条例
金石西１丁目、２丁目地内

金石は犀川河口の右岸にあって日本海に面する港町です。古くより海上交通の重要地であり、江戸時代には北前船の往来により様々な物資が集まる加賀藩の交易の中心地として繁栄しました。通りには下見板張りの町家が建ち並び、どことなく懐かしさを感じる港町のまちなみが広がっています。

4 観田家住宅　主屋・西塀・西蔵
かんだけじゅうたく　しゅおく・にしべい・にしぐら

国登録文化財・市指定保存建造物
金石西２丁目 12-3
内部非公開

観田家住宅は金石の中心部にある町家住宅です。明治３年(1870)建築の数寄屋造りの建物は廻船問屋の湊屋左太郎の屋敷と伝わっており、各所に質の高い意匠を見ることができます。主屋の玄関脇の腰板や西塀の横板には船の部材を用いるなど、北前船で富を築いた商家らしい特徴的な佇まいは、港町金石を代表する建築物の一つといえます。

5 大野町こまちなみ保存区域
おおのまちこまちなみほぞんくいき

金沢市こまちなみ保存条例
大野町地内

大野町は金沢港の入口にあって日本海に面する港町です。古くは北前船の要所として栄えました。町内には北前船寄港地として発展した往時の面影を色濃く残すまちなみが広がっています。現在では醤油や味噌などの醸造業が盛んに行われ、蔵を改装したカフェなどでは醤油や味噌を使った料理やスイーツなどが楽しめます。

6 粟崎八幡神社奉納絵馬額面
あわがさきはちまんじんじゃほうのうえまがくめん

金沢市指定文化財（有形民俗文化財）
粟崎町へ 49　粟崎八幡神社
非公開（特別公開あり）
☎076−238−3024

粟崎町の粟崎八幡神社には、船の新造祝いや航海の安全・無事帰港を神に感謝して船主や廻船問屋たちが奉納した船絵馬が数多く保管されています。これらのほとんどは旧暦８月の秋季例祭に合わせて奉納されたものと考えられます。このうち７面は北前船の豪商・木谷（木屋）藤右衛門一族が文化～文久年間（1804～1863）にかけて奉納したもので、画質・保存状態ともに優れ、江戸後期から幕末にかけての豪商の威勢がしのばれる逸品です。

7 銭屋五兵衛家年々留附留帳
ぜにやごへえけねんねんどめつけたりとめちょう

石川県指定文化財（古文書）
金石本町ロ 55　石川県銭屋五兵衛記念館
不定期公開（展示日程はご確認ください）
☎076−267−7744

銭屋五兵衛は江戸後期から幕末にかけて活躍した北前船の豪商で、「銭五」の略称でも親しまれています。この古文書は銭屋五兵衛家の盛時の動向を書きとどめた帳面で、年々留は文政11年(1828)から嘉永５年(1852)まで、ほとんどが銭屋五兵衛自身の筆によるものです。本史料は現存するほぼ唯一の基本史料であり銭屋五兵衛を知ることのできる貴重な資料となっています。銭屋五兵衛の波瀾万丈の生涯を紹介する石川県銭屋五兵衛記念館で保管・展示されています。

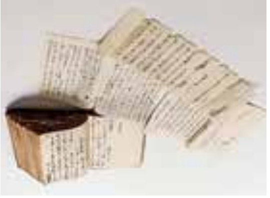
8 大野湊神社関係資料（大絵馬）
おおのみなとじんじゃかんけいしりょう（おおえま）

金沢市指定文化財（歴史資料）
寺中町ハ 163　大野湊神社　見学の際には事前連絡必要　☎076−267−0522

大野湊神社は加賀宮腰の氏神を祀る古社で、裕福な町人層の氏子衆に支えられ、さらに加賀藩の庇護も受けていました。大絵馬は絵師松波景栄の筆によるもので、安政２年(1855)に氏子町人らにより奉納されたものです。画面には幕末期の宮腰町の繁栄がいきいきと描写されています。また、境内には船主や船員たちが奉納した灯籠や狛犬などがあります。

9 中山家関係資料
なかやまけかんけいしりょう

この古文書群は、宮腰町の町年寄役・中山主計家に伝来したもので、近世史料5,152点と近代史料2,025点からなります。中山家は江戸時代の宮腰町年寄役を代々世襲した商家で、加賀藩との交流や町年寄としての町方経営・港湾運営などの公的なものから中山家の由緒や家系、交誼や嗜好などの私的な内容のものまで幅広く残っています。



石川県指定文化財（歴史資料）

玉川町 2-20　金沢市立玉川図書館近世史料館
マイクロフィルム閲覧可　☎076−221−4750
休館：月曜日（祝日・振替休日と重なった場合は開館）、年末年始、特別整理期間

10 紙本著色蓮湖真景之図
しほんちゃくしょくれんこしんけいのず

文久元年(1861)に佐々木泉玄が描いた２巻の絵巻物で、大野川を中心に当時の沿岸の村々を写実性豊かに描いています。大野町周辺の地理や生活を今に伝える貴重な文化財です。

金沢市指定文化財（絵画）　個人蔵

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間　北前船寄港地・船主集落

金沢探訪MAP

大野からくり記念館
大野町４丁目甲 2-29　☎076-266-1311
休館：水曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
大人 300 円／小人 200 円

石川県銭屋五兵衛記念館
金石本町ロ 55　☎076−267−7744
休館：12~4 月の火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
大人 500 円／小・中・高生 350 円

金沢海みらい図書館
寺中町イ 1-1　☎076−266−2011
休館：水曜日（祝日・振替休日と重なった場合は開館）、年末年始、特別整理期間

北前船みどころ SPOT

Ⓐ 秋葉神社
銭屋一族が奉納した灯籠や北前船の船員たちが奉納した船絵馬などが保管されています。

Ⓑ 大野湊神社夏季大祭社殿地
夏季大祭で御祭神が神輿に乗って向かう目的地です。御祭神は到着後２日間滞在し、最終日に神社へと還ります。

Ⓒ 金刀比羅神社
北前船にまつわる絵馬が数多く奉納されています。

Ⓓ 西の宮社
境内の灯籠は北前船の船主たちが奉納したもの。北前船で運ばれた瀬戸内海産の石材が使われています。

Ⓔ 金石銭五公園
公園内には銭屋五兵衛の大きな銅像が建ち、今も金石のまちを見つめています。

Ⓕ 大野日吉神社
まちを一望できる絶景スポット。大野の北前船の船主たちが奉納した鳥居や灯籠、狛犬などがあります。

Ⓖ 傳泉寺
北前船の船主たちが寄進した手水鉢、からくり師・大野弁吉の墓などがあります。

Ⓗ 大野こまちなみ公園
大野の豪商・丸屋伝右衛門の旧宅跡と伝わり、園内には石碑があります。

Ⓘ 大野からくり記念館
幕末に活躍し、豪商・銭屋五兵衛とも交流があったからくり師・大野弁吉の業績と作品を紹介しています。

Ⓙ 粟長醤油／大野弁吉資料室
大野弁吉にゆかりのある資料を数多く収蔵・展示しています。
※見学の際には事前連絡必要　☎076−267−0260

Ⓚ 木谷公園
粟崎を拠点として活躍した豪商・木谷藤右衛門の屋敷跡地です。

Ⓛ 粟崎地蔵尊（身代わり地蔵）
村人と武士との騒動の際に村人の代わりに刑死した若者を供養する地蔵で、別名「身代わり地蔵」ともいいます。

Ⓜ 粟崎御旅屋御亭跡
加賀藩５代藩主前田綱紀が大野川周辺で舟遊びや鷹狩り、茶会などを行った際の休息所の跡地です。

Ⓝ 銭五の館
銭屋五兵衛旧宅の一部を移築し、当時の住居を再現しています。ゆかりの品々の展示も。　【入館料必要】

Ⓞ 金沢海みらい図書館
北前船の資料が充実しています。2012年には「世界で最も美しい公共図書館25選」に選ばれました。

金石　Kanaiwa

金石地区はかつて宮腰（みやのこし）と呼ばれた、日本海に面した犀川の河口付近にある港町です。江戸時代には多数の船が入港して栄え、また、加賀藩の財政を支えた北前船の豪商・銭屋五兵衛を生んだ港町でもあり、北陸の重要な港湾の一つでした。明治時代以降、流通拠点としての勢いは次第に失いましたが、現在は漁港としての金石港があるほか、古い寺社や港町の面影を残す古い町並みが残っています。

金石の北前船船主 －銭屋五兵衛－

醤油醸造業や金融業などを手広く営む家に生まれ、先代が海運業を始めました。五兵衛が家督相続した後、39歳の時に海運業を再開し、以降、北海道～大阪間の北前船航路において蔵米や木材、海産物などを主に扱って莫大な利益をあげ、加賀藩でも有数の豪商となりました。しかし晩年は河北潟埋立事業の疑獄事件により獄死するなど悲運なものでした。

祭礼　大野湊神社夏季大祭（金石夏まつり）

神輿に乗った祭神が大野湊神社から仮殿へと遷り、最終日に再び神社へと戻る渡御還御が行われます。神輿には曳山や太鼓台が続き、獅子舞や悪魔払いなども行われます。

金沢市指定文化財（無形民俗文化財）
毎年８月第１日曜日を含む金・土・日曜日
祭礼の問い合わせ：☎076−267−0522
（大野湊神社）

大野湊神社夏季大祭

祭礼　大野湊神社寺中神事能

加賀藩２代藩主前田利長が関ケ原合戦の戦勝報告として慶長９年（1604）に行われたのが始まりです。境内にある能舞台で春の例祭の正午から行われます。

金沢市指定文化財（無形民俗文化財）
毎年５月15日
祭礼の問い合わせ：☎076−267−0522
（大野湊神社）

大野湊神社寺中神事能

大野　Ono

大野地区は河北潟から日本海に注ぐ大野川の河口付近にある港町です。江戸時代の終わり頃から明治時代にかけて北前船の拠点として繁栄したほか、紀州（今の和歌山県）より伝わったとされる醤油造りなどが盛んに行われました。昭和45年の金沢港開港により周辺の景観は大きく変わりましたが、現在では町家や蔵元をギャラリーやカフェに改築するなど、新たな魅力の発信が盛んに行われています。

大野の北前船船主 －丸屋伝右衛門－

幼少期に家業が一時衰退するものの、家督相続後に家業の挽回に奔走し、遂には大小数十の船を所有するまでになったとされています。大野日吉神社には伝右衛門をはじめとした丸屋家一族が寄進した灯籠や狛犬が今も残されています。

祭礼　大野日吉神社例大祭（山王祭）

神輿や太鼓、奴行列や獅子舞が町内を巡り、天狗や鬼の面をつけた高校生による魔除けの舞「山王悪魔払い（金沢市指定無形民俗文化財）」が行われます。

毎年７月第４土曜日と翌日の日曜日
祭礼の問い合わせ：☎076−268−3896（大野町公民館）

大野日吉神社

大野日吉神社例大祭

粟崎　Awagasaki

粟崎地区は大野川の右岸に位置します。その由来は古く、『源平盛衰記』に「青崎」の名で見え、かつては河北潟と日本海を結ぶ大野川の地の利によって海産物や魚肥などを扱う港町として大きく繁栄しました。明治時代以降は海運業の衰退により徐々に戸数が減少しましたが、近年では区画整理などにより金沢郊外の住宅地の一角を担っています。

粟崎八幡神社

粟崎の北前船船主 －木谷藤右衛門－

木谷家は由緒によると元は西国の武士で粟崎村へ移住したと伝わっています。藩に収める薪や木材などを扱うなどして家業は次第に大きくなり、５代藤右衛門の時に藩の御用米の運用などで大きく成功し、苗字帯刀や藩主謁見の許可など破格の待遇を得ていました。その後も木谷家は商いを継続し、明治時代以降は地元の発展に大きく寄与しました。

祭礼　粟崎八幡神社秋季例祭

「御廻り（おまわり）」と呼ばれる神輿行列が行われます。悪魔払いを先頭に、獅子舞、奴行列、子供神輿、榊神輿、本神輿が町内をにぎやかに練り歩きます。

毎年９月第２日曜日を挟む土・日・月曜日
祭礼の問い合わせ：☎076−238−3024
（粟崎八幡神社）

粟崎八幡神社秋季例祭